令和6年度

浦庄小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

「聴く・話す・学び合う」力を定着させることによって、主体的に学習する児童を育成する。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
	校長　　教頭
	教務主任
	研修主任・高学年　(6年)
	中学年　(3年)
	低学年　(2年)

校長

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

◎次の(１)～(３)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

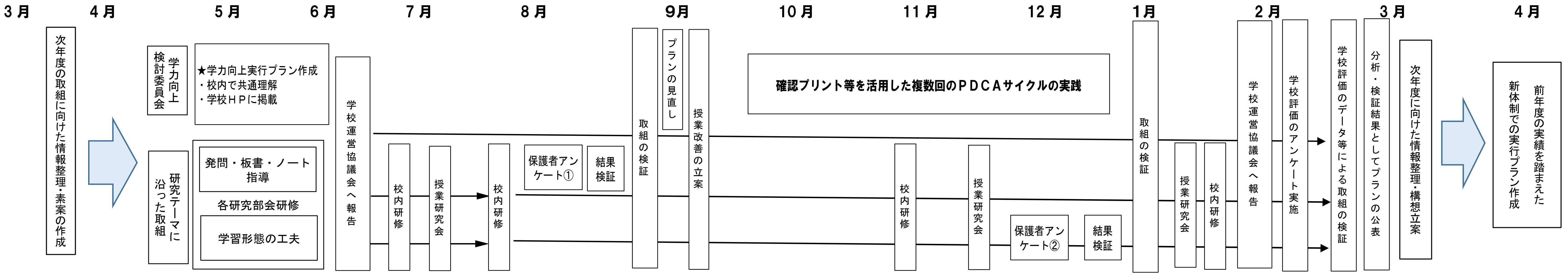
(１)知識・技能の習得

児童生徒の状況(〇よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
〇各学年における基礎的・基本的な言語に関する知識や、計算の力が定着している。 ●上の学年に進むにつれて、学力の差が広がる傾向があり、文章の内容を正確に把握する力に課題が残る児童がいる。	・漢字やローマ字の読み書きや四則計算などの基礎的・基本的な学力が確実に身に付いている。 ・身に付けた知識や技能を、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・ドリル学習や週２回程度の漢字や計算のミニテストに取り組み、一人一人の定着度を確認しながら、基礎的な学力の向上を図る。 ・「浦庄小学習の約束」に全校で取り組み、辞書の活用や正確な視写、言葉集めなどで語彙力を高める。 ・全校でタイピングの時間を設け、低学年からキーボード入力に慣れるようにする。	・朝学や宿題で、前学年の漢字や計算の反復練習をする。 ・児童用タブレットの効果的な活用方法を情報交換し授業に生かす。	・反復練習を行ったことで、漢字の読み書きや計算問題などの基礎的な力は身についてきたが、日常的な場面での活用に課題がある。 ・各学年でタブレットを使った指導を行い、キーボード入力を取り入れている。	・引き続き漢字や計算のミニテストを行い基礎・基本を根気よく積み重ねる。 ・日記やノート指導、作文の中で既習の漢字を使えるように、板書の正確な視写や日記指導、新聞活用を通して指導していく。

(２)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(〇よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
〇授業中まじめに学習に取り組み、自分の考えを表現したり、友達の意見を聞いたりすることのできる児童が多い。 ●自分の考えや思いを筋道立てて話したり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを豊かに表現することができる。 ・自分の考えと友達の考えを比べながら聞き、自分の思いや考えを明確にしたり深めたりすることができる。	・個人で考える時間を確保し、自分の考えをまとめてから、ペアやグループ学習の機会を設定する。 ・日記や作文、ノート指導、新聞活用などを通して、自分の考えを書く機会を増やし、理由や根拠、エピソードを踏まえた文章を考えられるように指導する。 ・全校で週末読書に取り組み、読書活動を充実させる。	・ペアやグループ学習の前に個人で考える時間をしっかりと確保し、話し合いで生かす。 ・様々な場面や条件に即して自分の考えを書く活動を積み重ね表現する。 ・阿波っ子タイムズや週末読書を活用し語彙力や表現力をつけていく。	・考えを表現する機会を多く設定したことで、自分の考えや思いをもって友達の意見を聞くことができるようになっているが、目的や条件に即した表現に課題が残る。 ・自分の意見や考えに自信をもてない児童がおり、多数派の意見を正しいと思ってしまったり、考えの理由を聞くとうまく答えられなかったりする場面が見られる。	・様々な場面や条件に即した考え方ができるように、発問の仕方を工夫したり問い方のパターンを増やしたりするなど手立てを考える。 ・友達の意見と自分の意見の両方を認められるように、多様な考えがあることを繰り返し伝えたり、新聞活用や週末読書の継続で様々な表現に触れる機会を設定したりする。

(３)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(〇よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
〇与えられた課題にきちんと取り組むことができる児童が多い。 ●自ら自分に合った課題を見つけ、主体的に学習ができる児童は少ない。 ●学び合う授業のための「浦庄スタイル」の徹底に課題がある。	・課題解決に向けて、各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習を振り返り、自分に合った課題を見つけたり、自分で考えて判断したりすることができる。 ・友達の考えから学ぼうという意識をもって授業に臨むことができる。	・発達段階に応じた発表の仕方を継続し、学び合う授業ができるようにする。 ・学習したことの発表や読み聞かせなどで異学年での交流や共同学習の機会を設け、目的意識をもって学習に取り組むことができるようにする。 ・家庭学習の手引きや自主学習の良い見本を示し、学習習慣の定着や内容の充実を図る。	・浦庄スタイルを継続しながら、学び合うための土台や雰囲気づくりをする。 ・身近な題材を用いて児童が興味をもち、分かりやすい授業展開になるよう教材研究に努める。	・「浦庄スタイル」の意識づけによって学びに向かう姿勢がよくなってきているが、まだ十分でない場面も見受けられる。 ・それぞれの学年で異学年交流の機会を設定し、目的意識や相手意識をもって学習に取り組むことができた。	・学び合う授業のために、粘り強く「浦庄スタイル」の指導を続ける。 ・自主学習や個別学習で、自分に必要な学習を選べるように、タブレットも活用しながら課題を充実させる。

令和6年度　学力向上ロードマップ